

平成18年度 総合的な学習「白山の生き物調べ隊」
越前市白山小学校

日 時	時数	活 動 内 容	場 所	備 考
4月13日(木) 13:55~14:40	1	過去2年間の生き物調べについて	ワークスペース	
4月17日(月) 10:50~12:30	2	白山の生き物調べ① (ビオトープの生き物観察)	ビオトープ 教室	
4月20日(木) 13:55~14:40	1	白山の生き物調べ計画	多目的ホール	
4月21日(金) 8:50~9:35	1	活動の記録まとめ①	パソコン室	
4月24日(月) 13:55~14:40	1	白山の生き物調べ② (アベサンショウウオの成体観察)	ビオトープ	白山振興会1人
4月26日(水) 10:50~11:35	1	活動の記録まとめ②	パソコン室	
5月12日(金) 13:55~15:40	2	水田魚道について 水田魚道設置見学 活動の記録まとめ③	多目的ホール 田んぼ 教室	県自然保護課 松村さん テクノグリーン 関岡さん 専門家 鈴木さん 長谷川先生 越前市職員 白山振興会1人
5月23日(火) 13:55~15:40	2	田んぼ体験①(田植え)	田んぼ	白山振興会3人 PTA3人
5月26日(金) 13:55~14:40	1	活動の記録まとめ④	パソコン室	
6月 7日(水) 13:55~15:40	2	白山の生き物調べ② (ビオトープの個体数調査)	ビオトープ	長谷川先生 越前市職員
6月 8日(木) 14:55~15:40	1	活動の記録まとめ⑤	パソコン室	
6月15日(木) 13:55~15:40	2	白山の生き物調べ② (ビオトープと田んぼの個体数調査)	ビオトープ 田んぼ	長谷川先生 越前市職員
6月16日(金) 13:55~14:40	1	活動の記録まとめ⑥	パソコン室	
6月21日(水) 13:55~15:40	2	田んぼ体験②(草むしり1回目)	田んぼ	白山振興会3人 PTA3人
6月28日(水) 8:50~12:30	4	郷の森「里楽」の活動について 白山の生き物調べ④ (安養寺町ため池の水辺の生き物調査) ザリガニゲット大作戦	安養寺町	長谷川先生 越前市職員 白山振興会3人 PTA3人
6月30日(金) 14:55~15:40	1	活動の記録まとめ⑦	図書室 パソコン室	
7月 5日(水) 13:55~15:40	2	白山の生き物調べ③ (天王川の水辺の生き物調査)	二階堂町	
8月10日(木) 9:45~11:40	夏休み	ビオトープ作り・木道設置	ビオトープ	長谷川先生 越前市職員 白山振興会3人 郷の森「里楽」 PTA3人
7月14日(金) 13:55~14:40	1	活動の記録まとめ⑧	パソコン室	
7月20日(木) 10:50~11:35	1	田んぼ体験③(草むしり2回目)	田んぼ	白山振興会3人 PTA3人
7月20日(木) 13:55~14:40	1	活動の記録まとめ⑨	パソコン室	
9月20日(水) 13:55~15:40	2	田んぼ体験④(稲刈り)	田んぼ	白山振興会3人 PTA3人
9月21日(木) 14:55~15:40	1	活動の記録まとめ⑩	パソコン室	
9月27日(水) 13:55~15:40	2	田んぼ体験⑤(脱穀)	田んぼ	白山振興会3人 PTA3人
9月28日(木) 14:55~15:40	1	活動の記録まとめ⑪	パソコン室	

10月 4日(水) 13:55~15:40	2	田んぼの生き物調査③ (田んぼの生き物調査)	田んぼ	県自然保護課 松村さん テクノグリーン 関岡さん 専門家 鈴木さん 長谷川先生 越前市職員 白山振興会3人
10月 6日(金) 13:55~14:40	1	活動の記録まとめ⑫	パソコン室	
10月 9日(月) 13:55~14:40	1	活動内容まとめ(グループ)①	ワークスペース 図書室 パソコン室 多目的ホール	
10月10日(火) 13:55~14:40	1	活動内容まとめ(グループ)②	ワークスペース 図書室 パソコン室 多目的ホール	
10月11日(水) 13:55~15:40	2	活動内容まとめ(グループ)③	ワークスペース 図書室 パソコン室 多目的ホール	
10月12日(木) 13:55~15:40	2	活動内容まとめ(グループ)④	ワークスペース 図書室 パソコン室 多目的ホール	
10月13日(金) 13:55~14:40	1	グループ発表練習①	ワークスペース 図書室 パソコン室 多目的ホール	
10月16日(月) 13:55~14:40	1	グループ発表練習②	体育館	
10月17日(火) 13:55~14:40	1	グループ発表練習③	体育館	
10月18日(水) 13:55~15:40	2	グループ発表練習④	体育館	
10月19日(木) 9:45~11:45	行事	校内学習発表会予行	体育館	
10月20日(金) 13:55~14:40	1	グループ発表練習⑤	体育館	
10月21日(土)	行事	校内学習発表会	体育館	
10月24日(火) 13:55~14:40	1	学習発表会を終えて	パソコン室	
10月25日(水) 13:55~15:40	2	米の収穫祭	家庭科室 多目的ホール	県自然保護課 松村さん テクノグリーン 関岡さん 専門家 鈴木さん 長谷川先生 越前市職員 白山振興会5人 PTA5
12月 5日(火) 13:55~14:40	1	アベサンショウウオの卵や生き物の冬ごもりについて	ワークスペース	
12月 6日(水) 8:50~11:35	3	白山の生き物調べ⑤ (冬の生き物観察)	上黒川・鶴ヶ平	長谷川先生 越前市職員 白山振興会3人 PTA3人
12月 6日(水) 11:45~12:30	1	活動の記録まとめ	パソコン室	
12月20日(水) 13:55~14:40	1	生き物調べ 全体のまとめ	図書室 パソコン室	
12月21日(木) 13:55~14:40	1	生き物調べ 活動を振り返って	教室	
12月22日(金) 13:55~14:40	1	来年度の活動内容を考えよう	教室	
合 計	62			

武生第五中学校

総合的な学習

平成18年度 「環境」

予定表

7月21日 現在

日 時	活 動 内 容	場 所	ゲストティーチャーの依頼
4月21日(金) 13:40~15:30	昨年度までの取り組みを振り返って 本年度の活動について、用語調査、班 分け	PC室	
4月28日(金)	アベサンショウウオ等の自然観察会	都辺町 小学校横	長谷川先生、渡辺先生、 越前市 環境政策課 里地里 山再生推進室 室長 楠さん
5月12日(金)	水田魚道の設置	都辺町 小学校横	県自然保護課 松村さん 長谷川先生
5月19日(金)	野外調査まとめ 広報誌、HPの記事作成	PC室 図書室	
6月 2日(金)	冬みずたんぼにおける生物調査方法につ いて	都辺町 小学校横	県自然保護課 松村さん 長谷川先生 保護専門員
6月16日(金)	野外調査まとめ、トラップ作り 広報誌、HPの記事作成	PC室 理科室	
6月23日(金)	白山地区の環境調査(水質、大気等)	天王川、 理科室	福井大学地域教育科学部 中田先生
6月30日(金)	水質、大気調査まとめ 広報誌、HPの記事作成	PC室 図書室	
7月 6日(木)	野外調査まとめ 広報誌、HPの記事作成	PC室 図書室	
7月 7日(金)	野外調査まとめ 広報誌、HPの記事作成	PC室 図書室	
7月11日(火)	冬みずたんぼの生物調査	都辺町 小学校横	長谷川先生
7月13日(木)	環境分析について 信越化学環境分析センター	信越化学 環境分析セ ンター	バスにて
7月19日(水)	講演「コウノトリについて」 コウノトリの餌の量体験	多目的ホー ル	日本鳥類保護連盟理事、福井 県支部長 林 武雄さん
7月20日(木)	1学期まとめ 広報誌、HPの記事作成	PC室	
8月 9日(水)	冬みずたんぼの生物調査	都辺町 小学校横	県自然保護課 松村さん 長谷川先生
9月 1日(金)	野外調査まとめ、広報誌、HPの記事作 成 発表原稿まとめ	PC室 図書室	
9月 7日(木)	冬みずたんぼの生物調査	都辺町 小学校横	県自然保護課 松村さん 長谷川先生
9月 8日(金)	野外調査まとめ、広報誌、HPの記事作 成 発表原稿まとめ	PC室 図書室	
9月14日(木)	発表原稿まとめ、発表準備		
9月15日(金)	発表リハーサル		
文化祭	9月15日(金)~16日(土)		

3-2 地域住民への普及啓発

趣旨 住民が地元の自然の豊かさや生活文化を再認識し、里地里山の保全再生に対する関心を高め、その価値と保全の必要性について共通認識をもてるようにする。
希少野生生物の生息する自然環境を、人との交流と協力により、保全活動を真剣に考え、人と自然全体が元気の出る地域づくりにつなげる。

内容



- ・自然や文化資源の再発見・地図作成(里地探検隊)
各集落単位で、地域住民と地域外の人々が一緒に地域の中を歩き、地域の自然や生活文化について調べ、これをもとにこれからの地域づくりについて考える。
- ・地域の団体による里地里山学習の実施
自治振興会や諸団体が主催して実施する。講演、自然観察会、勉強会、ピオトープづくりや炭焼きなどの保全活動、野外の食材を楽しむ活動などを実施し、里地里山の保全・活用への認識を深める。
(例)しらやま振興会による里地里山セミナー(平成17年度)
第1回「田んぼのピオトープを造ってみよう！」
第2回講演会「今、なぜ里地里山なのか」と「白山の植物と野鳥観察会」
第3回「里山の秋の味覚を探そう」
第4回「里山の保全と炭焼き体験」
第5回講演会「里地里山と地域づくり」

関係主体

スケジュール	～H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
<ul style="list-style-type: none"> ・里地探検隊の実施 (H15 牧、上黒川、H16 安養寺、下別所) ・しらやま振興会里地里山セミナー ・エコレッジ交流センターによる各種講座・催し 		エコレッジ交流センターや自治振興会による各種講座、催し			
			里地探検隊の実施		



4. 地域外の人との交流と協働

4-1 エコ/グリーンツーリズムの推進					
趣旨	生物の豊かな地域の自然環境を生かして都市部の子どもたちを対象に体験活動事業を実施し、里地里山保全作業の一部を体験してもらい、都市住民との交流による地域活性化を図る。地域住民が運営主体として企画運営のノウハウを習得し、自立的に、経済性を確保しながら運営できる体制づくりを図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地元組織によるエコ/グリーンツーリズムの実施 自治振興会による「しらやまエコキャンプ」を実施する。都市部の子どもを対象に、夏にキャンプ泊で実施。ピクト作りや生物観察、里山体験等を通して、白山・坂口の魅力を体験してもらおう。環境保全型農業と連携し、オーナー制への発展、民泊等への発展も検討する。平成 17,18 年度は、2泊3日を2回実施、各25人程度を募集。環境保全型農業との連携、オーナー制への発展、民泊等への発展も検討する。 ・滞在型里山体験の推進 地域の里山環境に魅力を感じる人に空屋等を利用して滞在してもらい、地域コミュニティに溶け込んでもらいながら、共に里山環境を保全する。地域のよさを外の人に評価してもらうことで、地元の意識転換につなげ、地域活力の向上を図る。 体験の内容としては、地元の自然自然や街道、寺社などの歴史資源、伝統行事や郷土料理等の文化資源、農作業体験などの農林資源を活用する。 ・運営組織の育成 「しらやまエコキャンプ」は、18年度までは専門機関の協力を借り、企画運営のノウハウを住民が習得する。以降はしらやま振興会の自主運営に以降する。 ・自然観察マップ、体験ガイドマップの作成 外部者に案内できるように、マップを作成する。全体のマップと各集落版をと作成し、外部者に紹介できる場所と、希少種保護の観点から紹介しない場所とを住民が把握する。 マップ作成の過程で案内できる地域住民を増やす。 				
関係主体	しらやま振興会、うららの町づくり振興会、エコビレッジ交流センター				
スケジュール	~H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
	H17~ 白山エコキャンプ	しらやまエコキャンプの実施	白山エコキャンプの継続 (しらやま振興会による自主運営)		
			滞在型里山体験のメニューの洗い出し 滞在者受け入れ体制の構築		滞在型里山体験の実施
事業イメージ	 				

しらやまエコキャンプの実施																	
趣旨	当地区の自然環境を守る取り組みとあわせ、魅力的な地域づくりを目指して地域外の人との交流を図っていく。その一つの手法として、地域住民が主体となりエコツーリズム企画運営のノウハウを習得しエコキャンプを実施することで、里地里山の保全活用を図っていく。																
関係主体	しらやまエコキャンプ実行委員会 福井県、越前市 協力：福井工業高等専門学校、仁愛大学、福井大学 後援：福井新聞社、福井テレビ、福井放送																
参加者の状況	18年度の参加者状況 各コース25名定員 小学3年~6年対象 Aコース 25名(うち県外者3名) Bコース 24名(うち県外者6名) リピーター14名																
実施状況	<p>【経過】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17年12月</td> <td>18年度エコキャンプ打ち合わせ第1回目</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td>以降毎月1~2回、打ち合わせや現場下見等を実施</td> </tr> <tr> <td>18年4月</td> <td>18年度エコキャンプチラシ作成完了・広報開始</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td>以降、広報を継続、開催に向けた準備</td> </tr> <tr> <td>18年7月</td> <td>A、B両コース参加者が定員に達す</td> </tr> <tr> <td>18年7月28~30日</td> <td>エコキャンプAコースの開催</td> </tr> <tr> <td>18年8月6~8日</td> <td>エコキャンプBコースの開催</td> </tr> </tbody> </table>	年月	取り組み内容	17年12月	18年度エコキャンプ打ち合わせ第1回目	↓	以降毎月1~2回、打ち合わせや現場下見等を実施	18年4月	18年度エコキャンプチラシ作成完了・広報開始	↓	以降、広報を継続、開催に向けた準備	18年7月	A、B両コース参加者が定員に達す	18年7月28~30日	エコキャンプAコースの開催	18年8月6~8日	エコキャンプBコースの開催
年月	取り組み内容																
17年12月	18年度エコキャンプ打ち合わせ第1回目																
↓	以降毎月1~2回、打ち合わせや現場下見等を実施																
18年4月	18年度エコキャンプチラシ作成完了・広報開始																
↓	以降、広報を継続、開催に向けた準備																
18年7月	A、B両コース参加者が定員に達す																
18年7月28~30日	エコキャンプAコースの開催																
18年8月6~8日	エコキャンプBコースの開催																
今後の予定等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ終了後に反省会を開催し、今年度キャンプの反省点、次回に向けての改善点等を洗い出すとともに、来年度以降の実施体制について検討する。 ・今後の検討課題として、地元の人たちが継続できるような体制づくりが一番に挙げられる。このことについても、地元の人たちの意見を尊重しながら検討を進めていく。 白山地区と坂口地区との連携 希少野生生物保全指導員の参加 																

2006

福井・越前

しらやまエコキャンプ

しらやま地区は、環境省の指定「里山型自然環境保全地域」に指定されています。

主 催：しらやま委員会、しらやまエコキャンプ実行委員会
 共 催：福井県、福井市
 協 力：福井工業高等専門学校、信州大学、福井大学
 後 援：福井新聞社、福井テレビ、福井放送

おまじいおごんぼ

2泊3日 テント泊
 名 15,000円
 対象：小学3年生～6年生
 定 員：A・Bコース 各25名

Aコース 7/28(金)～30(日)
 Bコース 8/6(日)～8(火)



テントに泊まり、夜の虫鳴めにだけり、自転車で走って風をきき、田舎風景や生き物を先達にながら、水溜や溜池の豊饒に汗を流し、のどが渇いたら「しらやまスイカ」をたらふく食べて、大空と稲穂の中でのんびり・・・

それがしらやま流の **エコキャンプだ!**

しらやまエコキャンプ実行委員会
 〒915-1204 福井県越前市御坊38-84 しらやま公民館内
 開館：毎月(月～金 AM9時～PM5時)
 Tel:0778-28-1045 / Fax:0778-29-2071
 E-mail:s-atinkou@es.tbn.ne.jp

2006 しらやまエコキャンプの日程

	Aコース: 7・28(金)～30(日)	Bコース: 8・6(日)～8(火)
一日目	午前 開校式・昼食・オリエンテーション しらやま地区内のエコツアー ※サンジョウウツボ・手鞠もみんぐ・ザリゴシのりなど 昼食:カレーライス 夕方後 スタッフや仲間との交流会 一日の「ふりかえり」	開校式・昼食・オリエンテーション しらやま地区内のエコツアー ※サンジョウウツボ・手鞠もみんぐ・ザリゴシのりなど 地区内で「もらい湯」 しらやま地区「夏祭り」に参加! 一日の「ふりかえり」
二日目	午前 ログハウス周辺の環境整備 しらやまスイカの収穫や試食 午後 森と田んぼと溜池の道草ハイキング ※夏草刈りなど(とんぼ屋あたりに参加できるかな?) 地区内で「もらい湯」 ライトトラップ(夜に集まる昆虫の採集と観察) 一日の「ふりかえり」	雑木林で過ごす ※ザリゴシのお手紙(1)・昆虫採集や釣り 川水や小川の源をすくったりの整備 ※ドジョウ、サユ、ライコウチに観察できる! 昼食:カレーライス ライトトラップ(夜に集まる昆虫の採集と観察) 一日の「ふりかえり」
三日目	午前 片付け、室内清掃、各自荷物の整理等 キャンプのスライドショーとふりかえり 昼食の後閉校式・解散	片付け、室内清掃、各自荷物の整理等 キャンプのスライドショーとふりかえり 昼食の後閉校式・解散

★宿泊費は、宿泊材料費に入ります ★地元が安心・安全・おいしいお水です ★「もらい湯」は、地元民家のお風呂に入らせていただくことです

保護者の皆様へ



- しらやま地区・・・「しらやまスイカ」の産地として有名な越前市のしらやま地区は、環境省の「里山型自然環境保全地域」に指定されています。先われつつある日本の里山型自然環境保全地域にすむ生き物を保全すべく様々な取り組みが行われています。このエコキャンプもその一環で、青少年に親しみ、マイカ・トンボ・カブトムシをつかまえてきたりなどの体験を通して楽しいという地域の魅力がこめられています。
- 安全について・・・全ての活動において、安全についての責任感を説明・確認した上で、事故を未然に防ぐことを徹底いたします。万が一に備え常に「看護師」が常駐し病院までの送迎体制を整えています。また、事故や怪傷に対しては、スタッフもすべて参加者全員が傷害保険に加入します。その際には、当該保険の範囲で補償いたします。
- スタッフは・・・動物や植物に詳しい専門家、自然体験活動の専門スタッフが地元の方々と一緒に準備しているキャンプです。また、参加する子ども達の「フレンドシップボランティア」として、県内の大学生等が共に参加する予定です。





- 参加するとこんな特典が! ●
- ★2泊3日の活動の様子をCD-Rでプレゼントします
- ★ZaFF:ザリガシ関連作戦推進チーム「夏祭り」の発行
- ★もちろん「しらやまスイカ」食べます!


2006 しらやまエコキャンプ参加申込書

参加するお子様の氏名	性別	学年	保護者名
	男・女		住所 〒 -
	男・女		
	男・女		
参加するコース	あればメールアドレス		電話番号
<input type="checkbox"/> Aコース <input type="checkbox"/> Bコース			記入欄外(2桁目)

4-2 地域外の人との協働による自然再生活動					
趣旨	里地里山の手入れ、水辺の湿地化等の自然再生活動を地域外住民と協働で進め交流することにより、保全作業の人手を補うとともに、豊かな自然環境に対する価値観の共有を図り、保全への推進力とする。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアとの協働 活動団体「郷の森 里楽」が行う市民参加の森づくり（市内ボランティアと協働）、エコビレッジ交流センターが行う実践活動（市内ボランティアと協働）等を推進する。 エコキャンプ、エコツーリズム事業で参加者に保全活動の一部を担ってもらおう。 ・高等専門学校や大学との連携 研究や現地授業のフィールドとして、地元と連携し保全活動や調査研究を行なう。 福井大学...生物相復元のための上黒川での放棄田湛水実験・調査 福井高専、仁愛大学...坂口地区でのビオトープづくりへの参加、 白山エコキャンプへのスタッフ参加 等 				
関係主体	郷の森 里楽、しらやま振興会、うららの町づくり振興会、福井大学、福井工業高等専門学校、仁愛大学				
スケジュール	~H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加の森づくり ・白山エコキャンプでの大学等との協働 ・福井大学によるビオトープ実験・調査 	<p>郷の森里楽による市民と協働の里山保全活動【p.23 参照】</p> <p>水辺の生態系保全活動における大学や研究機関との協働</p> <p>エコツーリズム事業における参加者・大学等との協働</p>			
事業イメージ	 <p>市民参加の森づくり</p>  <p>キャンプリーダーを務める大学生</p>				

4-3 拠点の活用					
趣旨	<p>旧安養寺分校を希少野生生物に関する調査研究の拠点、地域の自然・文化の紹介、体験学習・環境学習、エコツーリズムの活動の拠点として活用し、調査研究が恒常的・継続的に出来る環境づくりや協働・交流事業の定着を図る。</p> <p>越前エコビレッジ交流センターでは環境学習、環境情報の発信基地として教室やイベント、展示会などを開催し、里地里山保全の実践と地域内外への普及啓発を図る。</p>				
内容	<p>・旧安養寺分校 下記の点をふまえ具体的な活用計画を検討する。</p> <p>調査研究拠点 希少野生生物保全指導員による調査データの整理集積、調査道具の保管、飼育・実験研究のための設備、専門家による現地研究に必要な設備等</p> <p>エコツーリズム、環境学習・自然体験活動拠点 キャンプサイド、座学、地域の自然と文化の紹介・展示、道具保管等</p> <p>管理体制の検討</p> <p>・越前市エコビレッジ交流センターの活用 環境情報・環境学習の拠点である同センターが、里地里山保全活動推進の拠点として里山環境スクールや交流教室の企画運営、事務機能を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に12回の里山環境スクール（自然観察会、川・ため池たんけん隊等） ・年30回の交流教室（味噌づくり、チマキづくり、豆腐づくり等） ・プロジェクトワイルド等のプログラムを利用した環境学習、省エネやリサイクルに関する学習会 ・休耕田を利用したピオトープづくりによる絶滅危惧種の保護、増殖。 ・環境活動リーダー作りの養成講座の検討 ・情報発信 環境新聞（風だより）を年3回発行、ホームページで活動内容紹介 				
関係主体	越前市、しらやま振興会、安養寺町、エコビレッジ交流センター				
スケジュール	～H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
	<p>・旧安養寺分校をキャンプ拠点として活用</p> <p>・エコビレッジ交流センターでの各種講座・情報収集・発信</p>	<p>旧安養寺分校：白山エコキャンプの拠点として活用（継続）</p> <p>エコツーリズム拠点・調査研究拠点機能、施設管理運用体制を含む年間活用計画の検討</p> <p>エコビレッジ交流センターの活用（継続）</p>			
事業イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>旧安養寺分校</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エコビレッジ交流センター</p> </div> </div>				

4-4 情報発信

趣旨	地域の特徴、活動情報を発信し、自然と文化の豊かさ、里地里山の生き物の里として認知度を高める。同時に、ツーリズムや協働の保全活動、交流活動等についても情報発信することにより、地域への来訪者を増やし、地域住民と地域外の人との交流・協働を促進する。地域内に対しても、活動の状況やその必要性、保全の進捗状況とうについて共有化を図る				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの開設・運営 サイトは平成 17 年度に立上げ。以下のようなコンテンツについて検討し充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・白山・坂口の特徴、生物多様性豊かな地域の自然の紹介 ・ツーリズムや交流活動・協働保全 ・活動の応募情報活動の実施状況 ・スイカ、米の産直販売（メールやファクスで申込ができるようにするなど） ・新規就農者や長期滞在・移住希望者の受け入れ態勢を整え、募集する ・白山、坂口のコミュニティサイトとのリンク ・展示会や発表会等での活動紹介 ・各団体の広報等による情報発信 				
関係主体	水辺と生き物を守る農家と市民の会（事務局）				
スケジュール	～H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
		ホームページの開設	情報収集、ホームページ管理体制の検討		
事業イメージ					


ホームページの開設

趣旨	地域の特徴、活動情報を発信し、自然と文化の豊かさ、里地里山の生き物の里として認知度を高める。同時に、ツーリズムや協働の保全活動、交流活動等についても情報発信することにより、地域への来訪者を増やし、地域住民と地域外の人との交流・協働を促進する。地域内に対しても、活動の状況やその必要性、保全の進捗状況等について共有化を図る。
関係主体	水辺と生き物を守る農家と市民の会（事務局）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなコンテンツについて検討し充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ～すでに掲載を始めているもの～ 白山・坂口の特徴、生物多様性豊かな地域の自然の紹介、活動の募集・報告 ～今後掲載をすすめるもの～ スイカや米の産直販売（メールやファクスで申込ができるようにするなど） 新規就農者や長期滞在・移住希望者の受け入れ態勢を整え、募集する ・運営体制 当面、水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局で担当する。 情報収集方法等についての協議を行い、円滑にホームページを運用できるようにする。
	

5 . 人材の育成

5 - 1 希少野生生物保全指導員の養成					
趣旨	地元住民が希少野生生物や地域の生態系を保全するための知識と技能を身につけ、日常的な保全管理にあたり、里地里山の保全活用の主体となることを目指す。地域住民から「希少野生生物保全指導員」を各集落 2 人程度養成し、希少野生生物のモニタリング、不法採取等の監視、生息環境の維持管理を行う。				
内容	<p>希少野生生物保全指導員を、全 32 集落から、17～18 年度に各 1～2 名（現在 33 名）、19～20 年度でさらに 32 名養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家による定期的な研修 定期的に専門家（越前市希少野生生物保護専門員）の指導を受け、アベサンショウウオ等希少野生生物の生態、調査方法、生息地の管理方法を学ぶ。 ・ 希少野生生物のモニタリング、監視、生息地維持管理の実施 各自、自分の集落付近の 2 ヵ所程度を担当し、月 2 回のモニタリングと不法採取等の監視、年 2 回以上の生息地維持管理作業を行う。 ・ 体験活動等の指導の実施 小中学校の環境学習やエコツアー実施時に生物の解説やピオトープ作り等保全活動の指導を行なう。 				
関係主体	福井県、越前市、希少野生生物保全指導員				
スケジュール	～H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	希少野生生物保全指導員養成事業【p.16参照】 （アベサンショウウオ等希少野生生物等のモニタリング・監視・生息地維持管理） 第 1 期 H17～18			第 2 期 H19～20	
				県版グリーンワーカー制度等継続体制の検討	
事業イメージ					

5-2 自然体験・環境学習指導者の発掘と活用

趣旨	農作業、食、虫や魚採りといった暮らしの中での自然との関わり方を生活文化として伝承し、地域の環境保全と地域活性化に結びつける。				
内容	<p>・生活文化等の伝承者、自然体験指導者等の登録（達人バンク） 山作業、農作業、川遊び、郷土料理、伝統行事、昔語りなどができる人物を把握し、達人バンクとして名簿化する。</p> <p>・体験活動等での体験指導を実施 自然体験学習・環境学習やエコツーリズムで指導者になってもらい、活動メニューに生かす。 エコビレッジ交流センターでは、「里山ティーチャー」「里山の知恵袋」として地元住民がかきもち作り、藁細工、味噌づくりなどの体験指導などを行っている。</p>				
関係主体	しらやま振興会、うららの町づくり振興会、エコビレッジ交流センター 白山公民館、坂口公民館				
スケジュール	～H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
	エコビレッジ交流センター里山ティーチャー	<p>人材の把握 名簿化（達人バンク化） 体験活動での指導実施</p> <p>エコビレッジ交流センター「里山ティーチャー」による体験活動の指導（継続）</p>			
事業イメージ					

6. 推進体制の構築

6-1 推進組織「水辺と生き物を守る農家と市民の会」

趣旨	地域戦略の内容を将来にわたり継続して実施できるような体制づくりを図る。協議会を設置し諸活動で協力するとともに、外への情報発信や外部からの新たな参加者・協力者に対する窓口の一元化をはかり、諸活動の円滑化を図る。農・林・教育等様々な分野の連携、また自治組織、活動団体、事業団体、行政等の主体間が連携し、地域戦略にもりこんだ内容を中心とする里地里山保全再生活動を、効果的・継続的に推進する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域戦略の各事業の推進 ・協議会、運営会議の開催 地域戦略に盛り込まれた各々の事業について諸団体が連携し効果的に活動が推進できるよう、各主体の活動情報や施策情報（報告・予定）を共有する。協働・連携できる事業について検討する。 ・メーリングリストの運用 上記協議会・運営会議を保管するため、細かな連絡手段としてメーリングリストを運用する。すでに事務局里地ネットワーク管理のもと、運用を開始。 ・事業主体として連携事業の実施 活動実績の厚みをつくり助成金等を申請する事業主体となり、活動の継続を図る。効果的な保全活動の推進のために連携できる事業を実施する。 				
関係主体	希少野生生物保全指導員、自治組織、活動団体、農協等事業団体、小中学校、専門家、行政等				
スケジュール	~H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
		「水辺と生き物を守る農家と市民の会」	協議会、運営会議の開催 諸活動における団体間の連携		
事業イメージ					

「水辺と生き物を守る農家と市民の会」

趣旨	<p>地域戦略の内容を将来にわたり継続して実施できるような体制づくりを図る。協議会を設置し諸活動で協力するとともに、外への情報発信や外部からの新たな参加者・協力者に対する窓口の一元化をはかり、諸活動の円滑化を図る。</p> <p>農・林・教育等様々な分野の連携、また自治組織、活動団体、事業団体、行政等の主体間が連携し、地域戦略にもりこんだ内容を中心とする里地里山保全再生活動を、効果的・継続的に推進する。</p>
関係主体	希少野生生物保全指導員、自治組織、活動団体、事業団体、小中学校、専門家、行政等
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会、運営会議の開催、 地域戦略に盛り込まれた各々の事業について諸団体が連携し効果的に活動が推進できるよう、各主体の活動情報や施策情報（報告・予定）を共有する。協働・連携できる事業について検討する。 ・メーリングリストの運用 上記協議会・運営会議を保管するため、細かな連絡手段としてメーリングリストを運用する。すでに事務局里地ネットワーク管理のもと、運用を開始。 ・事業主体として連携事業の実施 活動実績の厚みをつくり助成金等を申請する事業主体となり、活動の継続を図る。効果的な保全活動の推進のために連携できる事業を実施する。
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p>~活動内容~</p> <p>希少な野生生物が生息する自然環境の保全 自然体験・環境学習の推進 人材の育成 地域外の人との交流と協働の推進 希少な野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくり 加盟団体相互の連絡調整に関すること その他目的達成に必要な事業に関すること</p> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>~組織~</p> <p>委員会には、以下の役員をおく 会長1名 運営委員若干名 事務局 2名 会計 1名 運営委員 加盟団体を代表する運営委員（1名以上）で構成する運営委員会を組織し、事業運営内容について具体的に協議すること。 事務局 越前市、エコビレッジ交流センター 里地ネットワーク</p> </div>

水辺と生き物を守る農家と市民の会会則

(名称)

第1条 本会は、「水辺と生き物を守る農家と市民の会」と称する。

(目的)

第2条 本会は、希少な野生生物が生息する自然環境を、人との交流と協働により保全活用し、人も生き物も元気が出る里地里山を創ることを目的とする。

(会員)

第3条 本会の会員は、その目的に賛同し、ともに行動しよう、支援しようとする者をもって構成する

2 会員は、本会則その他の規定を遵守しなければならない。

(役員)

第4条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 監事 2名
- (5) 事務局 3名

2 会長、副会長、運営委員、監事は総会において選任する。

3 役員任期は2年とする。ただし、再選は妨げない。

(役員の仕事)

第5条 この役員は次に掲げる仕事を行う。

- (1) 会長は本会を代表し会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長が事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 監事は本会の会務、会計の監査を行う。

(総会)

第6条 本会の総会は会長が招集し、その議長となる

2 総会は毎年1回開催する。ただし、会長が必要と認めたときは臨時に総会を開催することが出来る。

3 総会は次の事項を審議決定する。

- (1) 会則の制定および改廃に関する事。
- (2) 事業計画と予算、事業報告と決算に関する事。
- (3) 役員選任に関する事。
- (4) その他重要な事項に関する事。

(運営委員会)

第7条 運営委員会は、会長、副会長並びに運営委員により構成する。

2 運営委員会は、本会の運営及び事業の実施に関する事項について審議し、決定する。

3 運営委員会は、広く会員等の意見を反映させ、会員に対して情報提供を行う。

(事務局)

第8条 本会の事務局は、越前市環境政策課里地里山再生推進室内に置き、会務の処理にあたる。

(会計)

第9条 本会の経費は、補助金、寄付金その他の収入をもってこれにあてる。

(事業年度)

第10条 本会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第11条 この会則に定めるもののほか必要な事項は会長が別に定める。

附則

1 この規約は、平成18年8月 日から施行する。

地域戦略 [実施、点検とフォローアップ]

地域戦略の実施

地域戦略は、地方自治体、住民、中央省庁など様々な関係者が、対象地域の抱える課題について共通の認識を持ち、里地里山の保全再生に協力して取り組んでいくための方向性を示すものです。

里地里山の保全再生には、地元集落や自治組織、農林家や組合などの地元関係者、小中学校、専門家や研究機関、農協などの事業団体、保全活動団体やボランティアなどの幅広い参加と協力が不可欠です。地元の地方自治体、環境、農業、林業、都市緑地等に関係する中央省庁との連携も、効果的な対策を進める上で重要です。

また、「里地里山」と一口に言っても、地域によって、動植物の分布や土地の利用形態、管理方法、周辺の社会経済環境などは大きく異なります。対象地域の状況を十分、認識し、地元の社会的な合意を形成しながら、自主的な取り組み、行政による支援など、多様な手法を組み合わせた取り組みを進めていくことが必要です。

地域戦略の点検とフォローアップについて

地域戦略の実施状況を点検し、課題の解決に向けて検討するため、少なくとも年1回、里地里山保全再生モデル事業懇談会を開催します。実施状況によって、地域戦略の見直しと改正を行いながら実効性のある地域戦略へと改訂し、里地里山保全再生活動へと繋げていきます。

